

## 令和6年度文化祭模試問題

### E X

**I** 次の文章を読み、の中に最も適当な語句を入れ、下線部問(1)～(6)について後の問に答えよ。さらに、この文章にならない問(A)にも答えよ。

古代中国・<sup>(1)</sup>春秋末期の孔子を祖として発展した儒学・儒教は、中国の政治理念・思想・文化の基調となり、周辺のアジア諸国にも強い影響を与えた。

春秋時代、孔子によって儒学の根幹的な理念が作り上げられた。<sup>(2)</sup>孔子は「仁」という言葉で表す人間同士の相互信頼を軸に、徳に基づいた政治のあり方を理想とした。孔子の教えは、戦国時代になってaと荀子によって儒学として深化し、同時に多様化していった。aが「性善説」に立って徳による君主の政治を説いたのに対し、<sup>(3)</sup>荀子は「性悪説」に立って法による統治が現実的であると説いた。

ところが秦の始皇帝時代にはbが行われ、儒学も人を惑わすとして弾圧された。

秦が短期間で滅んだ後に中国を支配した前漢は、秦の法家偏重から転換し、儒学を政治に採り入れるようになった。特に、武帝の時に儒者のcの献策により<sup>(4)</sup>五経が定められて五経博士が置かれ、儒学は官学とされ、中国統一王朝の理念となった。

儒家が政界に進出し、官僚として国家支配に関わるようになると、抽象的な仁や礼の理念だけでは皇帝政治を支えるのには不十分であると考えられるようになり、そこに儒家の思想にdに始まる陰陽家の<sup>(5)</sup>陰陽五行説の思想を加味し、政策の正否を占うという讖緯説が行われるようになった。前漢末にはこの讖緯説が流行し、新を建国したeや、それを倒した後漢のf帝などは強くその影響を受け、権力の正当性を説明しようとした。

なおこの頃の儒教は、後漢のgが大成した訓詁学を主流としていた。魏晋南北朝になると、儒教を批判するh家の思想と結びついた、不老不死などの現世利益を求めるh教も並行して盛んであり、また外来の仏教も<sup>(6)</sup>たびたびの弾圧にもかかわらずに広がり、儒教は停滞した。

問

- (1) これは、史書・『春秋』に由来する。『春秋』はどの国を中心とする年代記か答えよ。
  - (2) このような孔子の思想に対し、より積極的な博愛精神による行動を説いた諸子百家の1つを答えよ。
  - (3) 荀子の思想からは法家が生まれた。始皇帝に仕え、その統一政策において重要な役割を果たし二世皇帝擁立に尽力したが、宦官の趙高と対立して処刑された法家の学者を答えよ。
  - (4) 百済は早くから中国の五経制度を採り入れ、大和朝廷に交代制で五経博士を派遣していた。513年に武寧王が派遣し、日本に初めて儒学を伝えた五経博士を答えよ。
  - (5) 後漢の張仲景が著し、西晋で完成した陰陽五行説に基づく医学書を答えよ。
  - (6) 4人の皇帝による、とりわけ規模が大きく後世への影響力も大きかった仏教弾圧を各皇帝号をとって何というか答えよ。
- (A) 唐代から現代の中国にかけての、儒学・儒教の展開・変質の流れを記述せよ。解答は、30

行以内で記述し、以下の 14 つの語句を必ず一度は用いて、それらの語句全てに下線を付すこと。なお、この問題用紙 4 ページ目を草稿用にも使用してもよい。

「太宗」           「韓愈」           「訓詁学」           「士大夫」           「周敦頤」  
「性理学」       「永樂帝」       「考証学」           「中体西用」       「戊戌の変法」  
「陳独秀」       「孫文」           「批林批孔運動」   「毛沢東」

Ⅱ 次の史料を読み、問(1)～(17)に答えよ。なお、史料の表記は便宜上、改めたところがある。

(a)神皇正統記に、(b)光孝天皇より上つたは一向上古也。万の例<sup>ためし かんが</sup>を勘ふるも、仁和より下つたをぞ<sup>もうす</sup>申める。五十六代<sup>ア</sup>幼主にて、外祖良房摂政す。是、外戚専権<sup>はじめ</sup>の始<一変>。基経<sup>がいきゅう</sup>外舅の親によりて<sup>イ</sup>を廃し光孝を建しかば、天下の権藤氏に帰す。そののち<sup>(c)</sup>関白を置き或は置<sup>おか</sup>ざる代ありしかど、藤氏の権おのづから日々盛<sup>さかん</sup>也<二変>。(d)六十三代冷泉より<sup>(中略)</sup>後冷泉<sup>およそ</sup>、凡八代百三年の間は外戚権を専<sup>もっぱら</sup>にす<三変>。<sup>ウ</sup>・白河両朝は政<sup>まつりごと</sup>天子に出ず<四変>。堀河(中略)安德、凡九代九十七年の間は、<sup>(e)</sup>政上皇に出ず<五変>。後鳥羽・土御門・順徳、三世凡三十八年の間は、鎌倉殿、天下兵馬の権を分ち掌<sup>つかさど</sup>らる<六変>。後堀河(中略)光厳、十二代凡十二年の間は、北条、<sup>(f)</sup>陪臣にて国命を執る<七変>。後醍醐重祚す、天下朝家に帰する事纔<sup>わずか</sup>に三年<八変>。そののち天子<sup>(g)</sup>蒙塵。尊氏、<sup>エ</sup>を立てて共主となしてより、天下ながく武家の代となる<九変>。

武家は源頼朝幕府を開<sup>ひらき</sup>て、父子三代天下兵馬の権を司<sup>つかさ</sup>どれり。凡三十三年<一変>。平義時、<sup>オ</sup>後天下の権を執る。そののち、七代凡百十二年、高時が代に至て滅ぶ<二変>。<この時に<sup>(h)</sup>摂家将軍二代、親王将軍四代ありき。>(中略)後醍醐中興ののち、源尊氏反して天子蒙塵。尊氏、<sup>エ</sup>院を北朝の主となして、みづから幕府を開く。子孫相繼<sup>あいつぎ</sup>て十二代におよぶ。凡二百卅<sup>さんじゅう</sup>八年<三変>。<このうちに南北戦争五十四年、応仁の乱後百七年の間、天下大に乱る。実に七十七年が間、武威あるがごとくなくれども、東国は皆<sup>(i)</sup>鎌倉に属せしなり。>(中略)足利殿の末、織田家勃興して<sup>(j)</sup>将軍を廃し、天子を挟みて天下に令<sup>はさ</sup>せんと謀りしかど、事未だ成らずして凡十年がほど其臣<sup>し</sup><sup>カ</sup>に弑<sup>しい</sup>せらる。豊臣家、其故智を用ひ、<sup>(k)</sup>みづから関白となりて天下の権を恣<sup>ほしさま</sup>にせしこと、凡十五年<四変>。そののち終に当代の世となる<五変>。

問

- (1) 下線部(a)の「神皇正統記」は誰の著作か。
- (2) 下線部(b)について、六国史は光孝天皇の伝記をもって終了する。六国史以降に「正史」が作られなかった理由を 4 行以内で述べよ。
- (3) <sup>ア</sup>、<sup>イ</sup>に入る天皇は誰か。それぞれ漢字 2 字で答えよ。
- (4) 下線部(c)について、平安時代中期、醍醐天皇・村上天皇は摂政・関白を置かずに親政を行った。これらの治世を聖代視して何と呼ぶか。
- (5) 下線部(d)について、左大臣・源高明を大宰府へと左遷することで、藤原氏摂関政治の

基盤をつくった人物は誰か。

- (6) に入る天皇は誰か。漢字 3 字で答えよ。
- (7) 下線部(e)について、院政期文化の特徴を 4 行以内で述べよ。
- (8) 下線部(f)について、北条氏が執権の地位を確立していく過程を 7 行以内で述べよ。
- (9) 下線部(g)について、「蒙塵」とは「難を避けて他所へ逃れること」を意味するが、後醍醐天皇が逃れたのはどこか。
- (10) に入る天皇は誰か。漢字 2 字で答えよ。
- (11) に入る語句を記せ。
- (12) 下線部(h)について、初代摂家将軍、初代親王将軍をそれぞれ答えよ。
- (13) 下線部(i)の「鎌倉」が指す役職名は何か。
- (14) 下線部(j)の「将軍」が指す人物は誰か。
- (15) に入る人物は誰か。漢字 2 字で答えよ。
- (16) 下線部(k)について、豊臣秀吉が関白になれたのはなぜか。1 行で述べよ。
- (17) この史料について、
- (あ) これは、新井白石が 6 代将軍・徳川家宣に武家の勃興の過程を進講した際の史論書によるものである。その書名は何か。
- (い) 新井白石は、公家政権における「九変」、武家政権における「五変」の「九変五変論」とよばれる独自の時代区分で歴史を説いている。この区分において、公家政権の<六変>以降と武家政権の<一変>以降の中で時代的に重複している部分があるのはなぜか、2 行以内で説明せよ。
- (う) このような史論書が記されるようになった背景を 4 行以内で述べよ。

